

## 茨城県庁舎内における風しん集団発生事例の概要について

茨城県衛生研究所

○大澤修一、大橋慶子、齋藤葵、後藤慶子、本谷匠、岩間貞樹、永田紀子、柳岡利一

### 【発生状況】

茨城県庁舎内 A 課所属の初発患者は、2018 年 12 月 3 日から 7 日にかけて発熱等の症状を呈した状態で出勤し、他の職員と接触した。その後、発疹がみられ、12 日に風しんと診断された。初発患者が発疹の症状を呈したおよそ 2 週間後、初発患者と同課 3 名、同フロアの他課 8 名 (B 課、C 課) が風しん患者と報告された。別フロアの他課 2 名 (D 課、E 課) にも感染が拡大し、合計 13 名が風しん患者と報告された。各課の発症日の分布は図のとおりである。12 月 31 日に発生した事例を最後に県庁舎内で新たな風しん患者が 6 週間発生しなかったことから、2 月 8 日に風しん患者の集団発生が終息したと宣言された。

患者 14 名の内訳は、男性が 13 名 (30 代 1 名、40 代 6 名および 50 代 6 名)、女性が 1 名 (40 代) であった。ワクチン接種歴は、1 名が接種歴 1 回あり、10 名が接種歴無し、3 名は不明であった。

### 【検査結果】

初発患者を除く 13 症例について、風しんの Realtime RT-PCR 検査を実施した。その結果、すべての症例において風しんウイルスの遺伝子が検出された。風しんウイルスの E1 遺伝子の一部 (739bp) についてダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定した。13 症例の風しんウイルスの遺伝子の塩基配列は 100%一致し、遺伝子型は全て 1E 型に分類された。ウイルスの遺伝学的解析結果と患者の疫学データから、本事例は同一株による集団発生であることが推察された。

### 【まとめ】

本事例における患者はワクチン接種歴無しが約 7 割を占めており、風しんの定期予防接種を受ける機会がなかった 40 代から 50 代が中心であった。茨城県全体の風しんワクチンの定期予防接種率は、2017 年度において第一期 96.9%、第二期 94.9%であり、他県と比べても高い接種率である。しかし、本事例のように定期予防接種を受ける機会がなかった世代を中心に風しんの感染が拡大したことから、風しん対策には定期予防接種未実施の世代を中心とした追加予防接種の推進が重要であると考えられた。

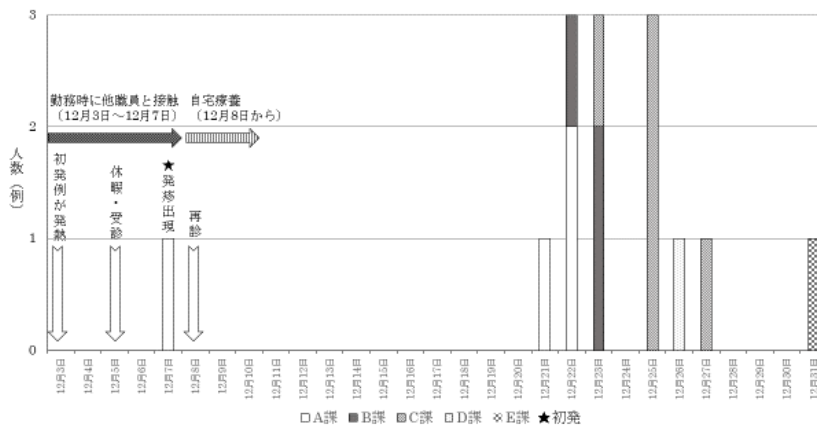


図 茨城県庁舎内風しん集団発生における各課の発症日の分布